

A 研究報告概要

- 一覧表（感染症種類毎）
- 感染症毎の主要研究報告概要
- 研究報告写

研究報告のまとめ方について

1 平成17年12月1日以降に報告された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。

2 一覧表においては、前回の運営委員会での報告したものの以降の研究報告について、一覧表の後に当該感染症の主要研究報告の内容を添付した。

感染症定期報告の概要(平成17年12月1日～平成18年2月28日)

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要
50179	2005/12/7	A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ドイツのワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
50199	2006/1/10	A型肝炎	Transfusion.2005;45(7):1097-1105	ドイツで、市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。
50199	2006/1/10	B型肝炎	AABB Weekly Report 2005;11(26):4-5	米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性又は中和試験で確認されないが繰り返し陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーが最低6ヶ月経過した後、個別NATによりHBVDNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。
50187	2005/12/20	B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
50187	2005/12/20	B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
50187	2005/12/20	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日	HBsAg陰性でHBsAb陽性患者が同種造血幹細胞移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した報告。免疫状態の変動によってウイルスの再活化が考えられる。
50187	2005/12/20	B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤への輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について。
50187	2005/12/20	B型肝炎	第53回日本輸血学会総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。

血対ID	受理日	感染症(PF)	出典	概要
50187	2005/12/20	C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
50187	2005/12/20	C型肝炎	J of Clinical Microbiology 2005;43(9):4413-7	日本において、HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNA定量で唾液検体が陰性であってもGCFではHCV-RNAが認められたという報告。HCVの感染経路を考察する必要がある。
50187	2005/12/20	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
50187	2005/12/20	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島市の9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
50187	2005/12/20	C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年 10月6-9日	2003年3月～4月にかけてペインクリニックで汚染されたバイアルの使い回しによるHCV感染拡大の報告。
50187	2005/12/20	C型肝炎	Transfusion.2005;45(6):9 94-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラト-期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。
50187	2005/12/20	C型肝炎	Transfusion.2005;45:807 -13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
50206	2006/1/26	E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。
50187	2005/12/20	E型肝炎	第41回日本肝臓学会総 会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
50186	2005/12/13	HHV-8	Transfusion.2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要
50201	2006/1/16	HIV感染、C型 肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー。
50187	2005/12/20	HIV感染、C型 肝炎	FDA Available form 2005 Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイダンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
50188	2005/12/20	HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV)-IとHTLV-IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
50187	2005/12/20	HTLV	Transfusion.2005;45:115 1-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
50187	2005/12/20	SENウイルス	Transfusion.2005;45:108 4-8	SENウイルスはエンベロープを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
50187	2005/12/20	ウイルス感染	ProMed20050824- 0080(Reuters Health 8 月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirnsと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
50187	2005/12/20	ウエストナイル ウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
50206	2006/1/26	ウエストナイル ウイルス	CBER Guidance for Industry June 2005	2005年6月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)は、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案。

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要	
50187	2005/12/20	ウエストナイルウイルス	CDC Available form	2005年8月-9月のニューヨーク、ペンシルバニアでのWNV感染に関連するQA。	2
50199	2006/1/10	ウエストナイルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294-1296,2005	2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV-RNAが検出された初めての事例。	
50186	2005/12/13	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-3	2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けた4名中3名がWNVに感染したと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体およびIgG抗体は陽性を示したがWNV-RNAは陰性であった。	
50201	2006/1/16	ウエストナイルウイルス	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。	
50206	2006/1/26	ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国で、2003年7月よりミニプール検体を用いてPCRによるWNV-RNAに関するスクリーニングが行われているが、米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。低レベルのウイルス血症の検体は抗体陰性で感染性のもも含め完全には検出できなかった報告。	
50179	2005/12/7	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性社員が米国で流行中のWNVと診断されたと発表。	
50187	2005/12/20	サル痘	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。	
50187	2005/12/20	デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。	3
50187	2005/12/20	鳥インフルエンザ	Nature 2005;437(7062):1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてタミフル(oseltamivir)耐性菌が発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与された。	
50179	2005/12/7	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月~4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5NI)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。疫学的、また、ウイルス学的に所見より、ウイルス進化が継続しているものと考えられる。	

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要	
50199	2006/1/10	鳥インフルエンザ	WHO/CSR/20051117	中国本土では初めての2人の高病トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。	
50179	2005/12/7	トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	インドで家畜と密着して作業している40代農夫が2004年9月から感覚異常を伴う発熱症状を示し、WHOの専門家による寄生虫学的検査によって、Trypanosoma evansiにより発症したトリパノソーマと世界で最初に公式に確認された。患者は指の傷口から感染した動物の血液による感染の可能性が考えられる。	
50199	2006/1/10	バベシア症	Transfusion.2005;45:1084-10	コネチカット州のBabesia流行地及びBabesia非流行の血液ドナーそれぞれ1745人のうちBabesia流行地の血清学的陽性血液ドナーは24人(1.4%)で、Babesia非流行の血清学的陽性血液ドナーは6人(0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19人のうち10人(53%)がPCRにより陰性であった。	4
50187	2005/12/20	パルボウイルス	CID 2005;41	パルボウイルスが急速には排出されにくいことを示唆する報告。	5
50208	2006/1/26	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1003-10	ヒトパルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。	6
50187	2005/12/20	パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100℃)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。	
50187	2005/12/20	BSE	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。	7
50187	2005/12/20	BSE	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群(Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。	
50199	2006/1/10	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Virology 2005;79(21):13794-6	CWD(慢性消耗病感染)ミュール鹿の脳組織を接種したリスザルにCWDが感染した報告。	8
50188	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。	

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要
50187	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
50187	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末。
50187	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
50179	2005/12/7	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
50206	2006/1/26	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Canadian Blood Service	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
50206	2006/1/26	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Hema-Quebec Center Press July 2005	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要	
50206	2006/1/26	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health20 July 2005	2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJD伝播の可能性があるため、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。	
50206	2006/1/26	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics?Pressrelease/PressReleasesNotices/fs/en?CONTENT_ID=4123496&chk=UnGWvb	英国においてvCJDのリスクを低減させるための通知が活動の次なる段階が開始された。	
50188	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。	
50199	2006/1/10	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sience.2005;310:324-6	慢性的な炎症がプリオンの分布を拡大しうるかもしれない報告。慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した結果、尿はプリオンの水平感染ベクターとなり排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。	9
50179	2005/12/7	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005;437(8) 257-61	PrPnoサイズと感染性及び変換活性を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝固物を持つ非線維性粒子が最も有効なイニシエーターであることが示唆された報告。	
50187	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature Medine 2005;11(9):982-5	異常プリオンを正常プリオンで増幅するPMCA法というvCJDの新スクリーニング法をテキサス大が開発し、脳内接種によるスクレイピーハムスターを用いた実験で血液中の異常プリオン検出に成功した。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。症状検出前の動物から採取した血液での検出、血漿や分画成分での検出について今後の課題。	
50188	2005/12/20	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):5 04-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。	
50187	2005/12/20	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。	
50187	2005/12/20	マラリア	ProMed20051015- 0070(Eurosurveillance10 月13日)	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。	10

血対ID	受理日	感染症(PT)	出典	概要
50179	2005/12/7	リケッチア症	第57回日本衛生動物学会56S57B05	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。
50187	2005/12/20	リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
50201	2006/1/16	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
50199	2006/1/10	レンサ球菌感染	ProMed20050726-2169(The Standard)	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は25% 四川省共産党書記官はこの菌はヒト-ヒト感染を起こさないと述べている。
50187	2005/12/20	細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。
50179	2005/12/7	人畜共通感染症	J of Infection 2005;51:91-7	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者からダニ媒介性キザナル森林熱に非常に類似した新種のウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビア Makkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などをともなう。致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱となるかもしれない。